

自分の考えをもち、進んで意見を交流して学びを深める子を目指して
 ～4年国語「5年生に物語文『プラタナスの木』の紹介文を書こう」～

加茂市立須田小学校 廣嶋 和人

1 目指した子どもの姿

(1) 児童の実態

平成27年度 学習指導改善調査（国語）の結果は、以下の通りである。

領 域	資 料 選 択							記 述 問 題			
	読 み 取 り				敬 語	分 類		構 成	文 字 数	選 択	段 落
問題番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
県平均正答率	76.4	76.6	73.5	60.6	58.2	53.8	57.2	43.0	68.8	53.6	53.5
自学級正答率	75.0	75.0	<u>58.3</u>	66.7	50.0	66.7	75.0	66.7	100.0	<u>50.0</u>	<u>41.7</u>

学習指導改善調査（国語）の結果から、読み取る力に課題があると考えた。また、自分の主張を明確にし、体験と結びつけて考え、内容を踏まえて段落を考えて書くことができていない児童が目立った。

今年度の物語単元「白いぼうし」では、主人公であるタクシードライバーの松井さんの言動から疑問に思ったことを課題として追求していった。課題に対して、根拠となる文を示すことはできるようになってきたが、課題の直前直後の文から選択をしていて場面全体を捉えて考えるところまでは気がついていない児童が多かった。また、その根拠として挙げた文をどう解釈して、自分は考えたかを話すことができる児童は少なかった。

次の物語単元「一つの花」では、場面全体を捉えた上で課題を考えることができるように場面の状況を確認した上で考えさせるようにした。課題に対して、場面全体から根拠となる文を探し、考えることができるようになってきつつあった。しかし、その根拠として挙げた文をどう解釈して、自分は考えたかをわかりやすく話すことができることまではできていない。

以上の実態から、読み取る力をつけるためには物語の場面ごとに情景をしっかりと掴ませ、その上で登場人物の言動を追い、心情の変化について考えさせていくことが大切であると考えた。

本校の研修主題は、次の通りである。

研究主題 「自分の考えをもち、進んで意見を交流して学びを深める子」

これを受け、本学級では次の児童の姿を目指した。

- ・ 場面の移り変わりや出来事確かめ、登場人物の気持ちの変化を捉えることができる子

(2) 目指す子どもの姿に迫るための手立て

- ① 「5年生への紹介文を書く」というゴールに向かって教材文を読んでいく。
 - ・ 段落構成を考えながら文章を書くことを苦手としている。5年生への紹介文を書くという具体的な最終目的をもたせることで、最後まで教材を読み、叙述に即した読みを深め、感想文を書くことができるようにする。
- ② 場面の移り変わりや出来事に注目させて読む。
 - ・ 物語文の内容を理解することに課題があると考える。全児童が内容を理解できるようにするために、五つの場面ごとに言葉や表現に気をつけながら読み、それぞれの場面の様子や出来事確かめていく。そして、主人公のマーちゃんやその友だちのプラタナスの木への思いを想像して書かせていく。
- ③ 友だちと意見の交流を小グループで行う。
 - ・ 自分の考えをもてなかつたり、もつことができても、どんな言葉で表現したらよいかわからなかつたりする児童もいる。そこで、考えの交流を行う場を設定する。自分の意見をもてない児童には、友だちの考えを聞いて、「なるほど。その考え、いいな。」と思った友だちの考えを取り入れるように助言する。また、どんな言葉で表現したらよいかわからない児童には、友だちの発言の中で、「ぼくの考えと同じだ。」と思った言葉を引用したり、参考にしたりして話すように助言をする。また、自分は、友だちの考えと同じだ。友だちの考えのこの部分はなるほどと思えた。だから、「自分は、友だちの考えと少し似ている。」「友だちの考えは、なるほどと思えなかった。だから、自分は友だちと考えが違う。」あるいは、「友だちの考えは、なるほどと思えた。今までの自分の考えは違っている気がする。考えを変えよう。」等、自分の意見の相違について考える中で、見方や考え方を変えたり深めたりできるようにする。
- ④ 思考がわかるようにノートに書く。
 - ・ 自分の考えをノートに書かせ、その上で友だちとの考えの交流をおこなう。そして参考になった友だちの考えを書いたり、感じたことを書いたりする。このことで、自分の考えたことがあとで振り返って確かめることができるようにする。

2 指導の構想

(1) 教材文 「プラタナスの木」 椎名 誠 作

(2) 単元目標

- 登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに想像し、話の内容や感じたことを5年生に紹介することができる。

(3) 評価基準

【関心・意欲・態度】

- ・ マーちゃんたちの気持ちの変化を場面ごとに読もうとしている。

【読むこと】

- ・ 場面の移り変わりやマーちゃんたちの気持ちの変化を捉えている。
- ・ 5年生にマーちゃんたちの気持ちの変化を伝えるため、本文を引用したり要約したりして紹介文を書いている。

【言語事項】

- ・ 情景を表す言葉や表現を見つけている。

(4) 指導計画（全8時間 本時6／10時間）

次	時	学 習 活 動	◎支援 ☆評価
一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学習した教材から、登場人物の交流を描いた教材を思い出す。 ・ 「物語文『プラタナスの木』を読んで5年生に紹介文を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎これまでに学習してきた、教材文「白いぼうし」「一つの花」「ごんぎつね」の学習時のことを想起させ、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ◎場面の移り変わりや出来事をに着目して読むことで、紹介文を書く時につながることを助言する。 ☆物語を読んで紹介文を書く」活動に意欲をもっている。（発言、ノートの記述）
二次	2 3 4 5 6 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の移り変わりや出来事に気をつけて教材文を読む。 ・ マーちゃんやその友だちの気持ちの変化を文書で表す。 ・ 書いた文章を読み合い、なぜそう考えたのかを説明し合う。 ・ 物語の最初と最後の場面を比べて、変わったことと変わらなかったことについて、自分の考えをまとめたり、友だちの考えを聞いたりする。 ・ プラタナスの木に対するマーちゃんたちの思いがどうして変わったのか話し合う。（本時） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎次の観点で児童が読み取ったことを整理していく。 ・ 「時」「場所」「登場人物」「出来事」「結末」 ・ 登場人物の気持ちの変化 ・ 最初の場面で変わったことや変わらなかったこと。 ◎感想が書けるように例文を示す。 ☆登場人物と自分の体験を比べている。（ノート） ☆場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を捉えている。（ノート、発言） ☆叙述をもとに紹介文に入れることをまとめている。（ノート、発言）
三次	7 8 9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「初め」「中」「終わり」の組み立てで、400字程度の紹介文を書く。 ・ 5年生へプラタナスの木の話の紹介をする。 ・ 「言葉」の課題に取り組む。 ・ 学習を振り返り、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「初め」「中」「終わり」の組み立てを確認し紹介文を書かせる ◎季節や風景を生き生きと表す言葉や表現をノートに書き出させる。（ノート） ☆本文を引用したり要約したりしながら紹介文を書いている。（紹介文） ☆情景を表す言葉や表現を見つけている。（ノート）

(5) 本時の授業

① 本時のねらい

- ・ プラタナスの木に対するマーちゃんたちの思いがどうして変わったのか、教材文をもとに考えることができる。

② 展開の構想

自分の考えをすぐに話せない児童がいる。そのため、話しやすくするために、あらかじめマーちゃんたちのプラタナスの木に対する気持ちはどうして変わったのかをマーちゃんとその友だちの言動をもとに、ノートに書かせた。ノートに書く時、根拠とした文（P・Lで表示）とその解釈について書かせるように指示をした。

一人一人がノートに書いたこと（別紙）は、公園のベンチに座っていたおじいさんが話してくれた、プラタナスの木が公園全体を守っているということ、地上のみきや枝葉がなくなったら根は水分や養分を送れなくて困ってしまうということを知り、プラタナスの木に対するマーちゃんたちの思いが変わったことに目が向いていない児童がいる。

そこで、ノートに書いたことともに、グループで発表しあう。友だちの考えと自分の考えの相違を明らかにして発言するようにする。尚、友だちの考えを聞いて考えが変え合った場合は、ノートに書いたことと変えて発言することも認め、そのことをことわった上で発言させる。また、友だちの考えを聞いてまとめる時には、参考になった友だちの考えを書くようにさせる。

その後、全体で発表を行い、出てきたこと全部がマーちゃんたちのプラタナスの木に対する気持ちがかわった理由なのか問い、本時の課題の解決に向かわせたい。

③ 本時の展開

分節時間	学習活動	教師の働きかけと児童の反応	指導上の留意点 ☆評価
つかむ 5分	本時の課題をつかむ	<p>T①：前の時間までに、「プラタナスの木」の話場面ごとに考えてきました。そして、最初の場面と最後の場面を比べて、マーちゃんたちのプラタナスの木に対する気持ちが、1の場面では、「公園にあるただの木」から、「公園の大切な木」に変わったことがわかりました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎マーちゃんたちの、プラタナスの木に対する気持ちは、なぜ変わったのだろうか？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 最初の場面と最後の場面でマーちゃんたちの、プラタナスの木に対する気持ちがかわったことを確認する。
伝え合う 10分	課題について話し合う	<p>T②：マーちゃんたちの、プラタナスの木に対する気持ちは、どうして変わったのか、グループの友だちと話し合ひましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A子・B夫・M子グループ A子：P52L6～ P57L5～ おじいさんと話をすることになって、木がおられてからはサッカーも白熱しなくなったからだと思う。 M子：P58L4～ 木がなくなって、おじいさんもいなくなってさみしい気持ちを、日かげのなくなったベンチにすわってみんなでプラタナスの木の大事さや木とおじいさんが見守ってくれた大事さ、安心感をかみしめた。でも、みんなでプラタナスの公園がかわらないようにみきや枝や葉っぱのかわりになろうと思った。 B夫：P52L13～ 「プラタナスの木が逆立ちしていることを聞いたことがあるかい。」とおじいさんが不思議なことを言ったと書いてあるので、木にきょうみをもってきたからだと思う。 C①：A子さんの、木がおられてからはサッカーも白熱しなくなったからは、マーちゃんたちのプラタナスの木に対する気持ちは、なぜ変わったのかとは違うと思う。 C②：おじいさんの話を聞いたから変わったんじゃないかな。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ司会を決めておき、司会に話し合いを進めさせる。 あらかじめノートに書いてあることをもとに話すようにさせるが、書いてなくても付け加えて話しても良いことにする。 先に発言した友だちと自分の考えの相違について述べてから話をさせる。



S夫・M子・K夫グループ
M子：P52L12 ～ おじいさんの話をきいて、きょうみをもったからだと思う。
S夫：P53L2 ～ P55L5 ～ おじいさんにいろんなことを教えてもらって、その時からプラタナスの木のことを考えるようになったから台風の時、心配になったからだと思う。。
K夫：P52L12 ～ おじいさんの不思議な話できょうみをもったからだと思う。
C③：みんな、おじいさんの不思議な話できょうみをもったからというので同じだね。

M子・Y子・R夫グループ
M子：P52L6 ～ プラタナスの木の下に集まっておじいさんが木の話をしてくれるようになったから、木のことを知ってきてきょうみをだんだんもってきたと思う。。
Y子：P51L2 ～ P57L10 ～
おじいさんからプラタナスの木について話を聞いてプラタナスの木のことを気になるようになっていたが、台風におそわれて切りかぶだけが残って消えてしまったからだと思う。
C④：まとめると、おじいさんの話を聞いてからだね。

A子・M子・Y夫グループ
A子：P52L12 ～ P52L6 ～ おじいさんが不思議な話をして、もう一つは木の話できょうみをもってきた。
M子：P52L7 ～ おじいさんが、「みんなもっと水をたくさんので少し日かげに入ってやすまないと熱中症になるよ。」と言ったのがきっかけで、おじいさんは、プラタナスの木のことを言ってくれてきょうみをもち始めたと思う。
Y夫：P52L13 ～ 最初は、きょうがあまりなかったけれど、根がこまるというおじいさんの話を聞くうちにきょうみをもったと思う。
C⑤：みんなおじいさんの不思議な話を聞いてかわったことでおなじだね。

☆マーちゃんたちの気持ちの変わったことを根拠となる文をもとに自分の解釈を入れて話すことができた。

深める
15分

課題についてまとめる

T③：グループで話し合ったことを発表してください。
C⑥：(A子・B夫・M子グループ)
P52L4 ～ L13 ～
おじいさんからたくさん話を聞いたから変わったと思います。
C⑦：(S夫・M子・K夫グループ)
P52L12 ～ P53L2
僕たちのグループも、おじいさんから木が逆立ちしているとか木が困っているとか、不思議な話で興味をもったから変わったと思います。
C⑧：(A子・M子・Y夫グループ)
P52L6 ～ L12 ～
僕たちのグループもおじいさんの不思議な話を聞いてかわったと思います。
C⑨：でも、まだマーチンたちが思っていることが他にもありそうな気がします。



		<p>C⑩：(M子・Y子・R子グループ) P52L6 P57L10～</p> <p>さっき発表したグループとちょっと似ていて、付け足すところがあって、おじいさんからプラタナスの木について話を聞いてプラタナスの木のことが気になるようになっていたが、台風におそわれて切りかぶだけが残って消えてしまったからだと思います。</p> <p>C⑪：それもあると思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> おじいさんから木の話の話を聞いていなくても最後の場面でマーちゃんたちは同じことをしていたか考えさせる。
振り返る 15分	本時の学習を振り返る	<p>T④：今日、学習したことを紹介文にまとめましょう。</p> <p>C⑫：プラタナスの木がある公園で遊んでいるマーちゃんたちは木の下にあるベンチにすわってマーちゃんたちがサッカーをするのをみていた。マーちゃんたちは、そのおじいさんと話をするようになり、プラタナスの木が公園全体を守っているということ、地上のみきや枝葉がなくなったら根は水分や養分を送れなくて困ってしまうということを聞いた。夏休みになってマーちゃんたちはそれぞれが家族と一緒に過ごしていた。そんな時、台風が来て、公園のプラタナスの木が倒れかかった。そのため、プラタナスの木が着られてしまった。公園で知り合ったおじいさんから聞いた話を思いだマーちゃんたちは、プラタナスの木に対する気持ちが、「公園にあるただの木」から「公園の大切な木」へ変わった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 残りの時間を考えながら数名に書いたことを発表させる。 ☆参考にした友だちの考えを入れて マーちゃんたちのプラタナスの木に対する気持ちはどうして変わったのか文章に書くことができた。(ノート)

(4) 評価

- マーちゃんたちの、プラタナスの木に対する気持ちはどうして変わったのか根拠とした文を示して捉えることができる。(ノート、発言)

3 考察

- 「5年生への紹介文を書く」というゴールに向かって教材文を読んでいく。
 - 段落構成を考えながら文章を書くことを苦手としていた児童も、5年生への紹介文を書くという具体的な最終目的をもたせたことで、場面ごとの情景や登場人物の心情について考えるために、最後まで教材を読み、叙述に即した読みを深め、感想文を書くことができた。
- 場面の移り変わりや出来事に注目させて読む。
 - 物語文の内容を理解することを苦手とする児童も、五つの場面ごとに言葉や表現に気をつけながら読み、内容を理解できるようにした。また、それぞれの場面の様子や出来事を前の場面との比較をしながら確かめ、主人公たちのプラタナスの木への思いを想像して書くことができた。
- 友だちと意見の交流を行う。
 - 考えの交流を行う場を設定したことで、自分の考えをもてなかつたり、どう表現したらよいかわからなかつたりした児童も、友だちの考えを聞いて、なるほどと思えたり、友だちの考えを取り入れたりする場面をみることができた。自分の意見の相違について考える中で、折衷案を考える方向に向いてしまい、見方や考え方を変えたり深めたりできるようにはならなかった。しかし、友だちの考えの良いと思う考えを取り入れようという様子がみられた。
- 思考がわかるようにノートに書く。
 - 自分の考えをノートに書かせ、その上で友だちとの考えの交流を行い、参考になった友だちの考えを書いたり、感じたことを書いたりした。感想文を書く時に、振り返って確かめながら書くことができた。

4 まとめ

学習指導改善調査の結果から読み取る力に課題があると考え、この実践を行った。自分の考えをすぐに話せない児童には、あらかじめ、登場人物の言動をもとに、ノートに書かせること、ノートに書く時は、根拠とした文とその解釈について書かせること、自分の考えを話す時には、ノートに書いたことを確認しながら話すこと友だちの考えと自分の考えの相違を明らかにして発言することを行わせることは、読み取る力をつけるには有効であった。しかし、児童の意見の集約の仕方があいまいな部分もあった。児童の意見を整理し、集約していくことについて、今後、研修を進めていきたいと考えている。